

神奈川県におけるサツキの分布状況

勝山 輝男・高橋 秀男

Teruo KATSUYAMA & Hideo TAKAHASHI: A Distribution
of *Rhododendron indicum* (Ericaceae) in Kanagawa Prefecture

はじめに

サツキ *Rhododendron indicum* Sweet は庭園などに広く植栽されるが、本来の生育環境は平常は川の流れの影響を受けず、増水時には冠水するような溪谷岩上である。神奈川県を分布の東限として、東海、中部、近畿、中国（山口県）、九州の一部に分布し、四国と九州の一部では近縁のキンツツジに置き換わっている。

神奈川県のサツキの分布については、神奈川県植物目録(1933)や神奈川県植物誌(1958)に「箱根・半原・津久井」、林ら(1961)に「丹沢山北部」とある。しかし、神奈川県植物誌1988の調査では、中津川溪谷以外からは自生のものといえる標本が採集されていなかった。しかし中津川溪谷の産地はダム建設で失われてしまう。そこで、津久井方面のサツキの分布を確認するために、道志川溪谷、秋山川溪谷、相模川本流の調査を行った。その結果、道志川溪谷で多数のサツキの生育を確認し、相模川本流でも一ヶ所の生育が確認できた。今回確認された生育地は、サツキ本来の生育環境と一致すること、現地の状況などから判断して植栽からの逸出ではなく、自生のものと考えてよいと思われる。これらを含む神奈川県内のサツキの分布状況について報告する。

中津川溪谷におけるサツキ

神奈川県植物目録(1933)に「半原」とあるように、中津川溪谷のサツキの分布は以前からよく知られていたようである。中川(1982)は中津川溪谷におけるサツキの分布状況を詳細に調査し、石小屋の上流から落合までの2~3kmの間だけで約1500個体を確認している。

中津川溪谷のサツキは、一日のうちの何時間かは陽光が当たるような岩壁の、平常水位の50cm位上から3mまで、所によっては5m位の高さまでの岩の割れ目

に固着している。これは増水時には水に洗われ、平常時には強く乾燥するような環境で、ネコヤナギ、ヒメウツギ、ホソバコンギク、イワギボウシ、ウラボクサ、ヤシャゼンマイ、ケイリュウタチツボスミレなどが混生している。

中津川の落合より上流では溪谷の規模が小さく、岩壁は上部の樹木に被われて暗くなりすぎ、石小屋の下流では川幅が広くなりすぎてサツキが生育できない。

1990年より、中津川溪谷では石小屋付近でのダム本体工事が本格化し、石小屋橋から上流の河床は工事用の道路として舗装され、側壁は金網やコンクリートで被われてしまった。筆者らの調査では石小屋橋の下流でサツキの生育は確認できなかったため、中津川溪谷のサツキは絶滅したものと考えられる。

道志川におけるサツキ

神奈川県植物目録(1933)や神奈川県植物誌(1958)には「津久井」とあり、筆者の一人高橋(1982)が鮑子付近で確認しているため、道志川にサツキが分布していることは予想されていたが、神奈川県植物誌1988の調査では標本が採集されていなかった。神奈川県植物誌1988の分布図のメッシュ清川2、愛川、津久井5の分布点はいずれも中津川溪谷のものである。

今回、道志川溪谷を青山貯水池付近から両国橋まで調査したところ、鮑子、青野原、亀見橋、道志第2発電所、夫婦園の上下流などに点々と生育を確認することができた(図-1)。奥相模湖から上流、両国橋までの間には見られなかった。中津川溪谷ほど個体数は多くないが、8~9kmにわたる広範囲に分布している。もっとも個体数が多く確認できたのは夫婦園の上流500m位の所で左右の岩壁に100個体以上が生育していた。

道志川には以前の中津川溪谷のように水が兩岸いっぱいに流れているような所はない。したがって川が直

線状に流れているような所では岸に土砂が堆積し、サツキは生育していない。溪流が屈曲する所では水が片側の岩壁を洗うように流れ、壁の高さも十分にあって樹木の陰が壁を被うこともない。このような所にサツキが固着している（図-2、図-3、図-4）。中津川溪谷と同様に平常水位の50cm位上から3m位の高さまでについていることが多い。ヤシヤゼンマイ、イワギボウシ、ホソバコンギク、ウラハダサ、ネコヤナギなど中津川溪谷と同じような種類が混生しているが、ダイモンジソウ、イワギボウシ、ヤシヤゼンマイの数が多く、やや湿った環境のようである。

道志川本流の山梨県側にも分布の可能性はあるが、^{かん}神の川は川幅が広くサツキが生育している可能性は低い。

相模川本流におけるサツキ

相模川の本流では津久井湖の湖底に沈んだ部分にサツキが分布していたことが伝えられている。しかし、この標本は確認されていない。

現在は相模湖と津久井湖により神奈川県内の相模川本流は大部分が水底に沈み、流れのある溪谷が残されているのは、相模ダム下流の1～2km位の範囲と城山ダム直下から小倉橋の間だけである。ここでは相模ダム下流の弁天橋付近に約10個体ほどが生育していることを確認した。城山ダムの下流にはサツキは生育していない。

相模湖の上流で分かれる秋山川については馬本、吉原あたりの溪谷に分布の可能性があると思われた。しかし、川幅が狭く兩岸の岩壁は上部の樹木に被われて暗く、サツキの生育は確認できなかった。

酒匂川、早川での分布の可能性

道志川溪谷や中津川溪谷の状況から、神奈川県でサツキが生育できる溪谷の条件を整理してみると、①兩岸の岩壁が高く、上部の樹木が岩を被うことがなく、一日のうちの何時間かは陽光があたること。②岩壁の下は水に洗われ、増水時には水をかぶるが土砂の影響はあまり受けにくいことである。

酒匂川水系の中川や玄倉川も溪谷を作っているが、増水時には大量の土砂が流れ、平常時には水量が少なくサツキは分布していない。酒匂川本流の山北から谷峨の間あたりの溪谷には分布の可能性があるが、いまのところ見つからない。

神奈川県植物目録（1933）や神奈川県植物誌（1958）

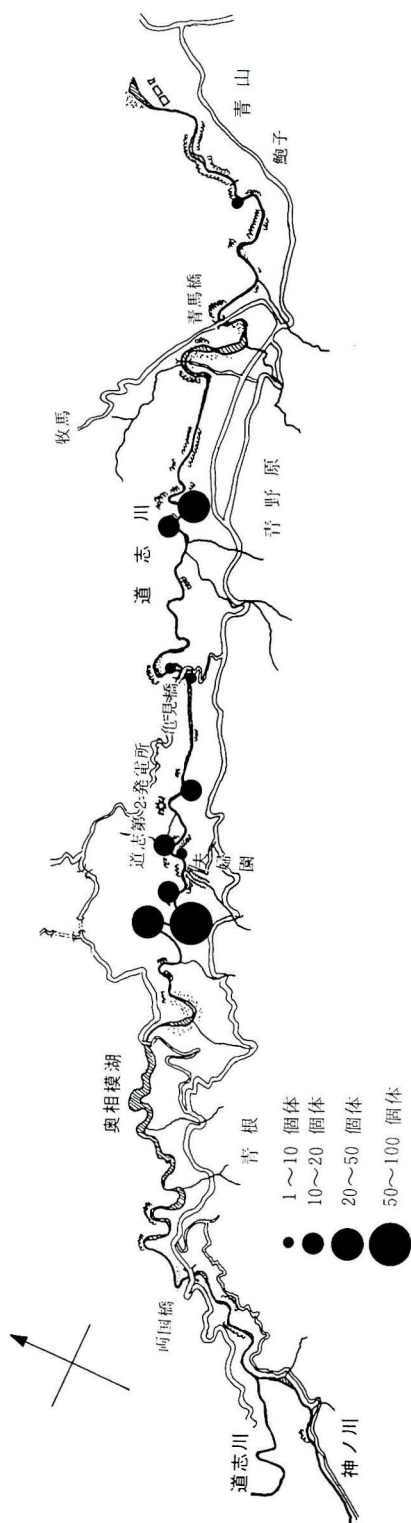


図1. 道志川におけるサツキの分布状況

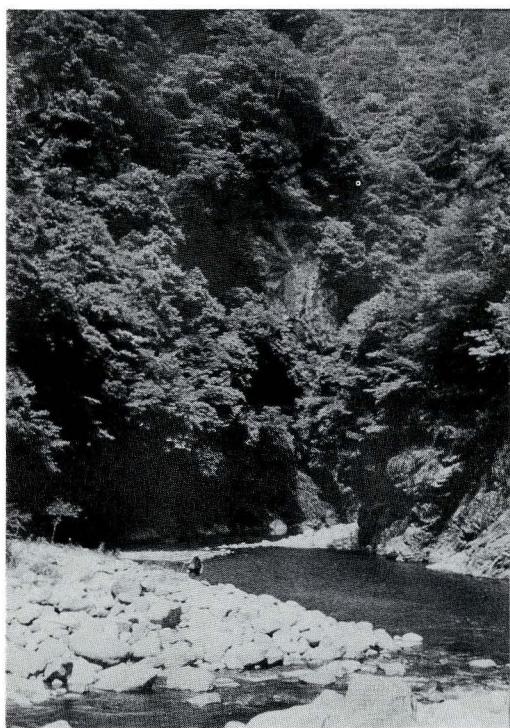


図2. 道志川の溪谷（夫婦園の上流500m付近）

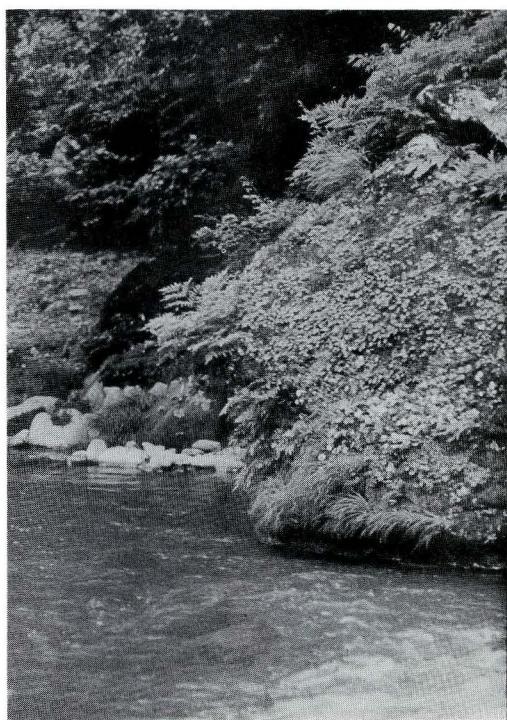


図3. サツキが固着している岩壁の状況（道志川溪谷夫婦園の下流）

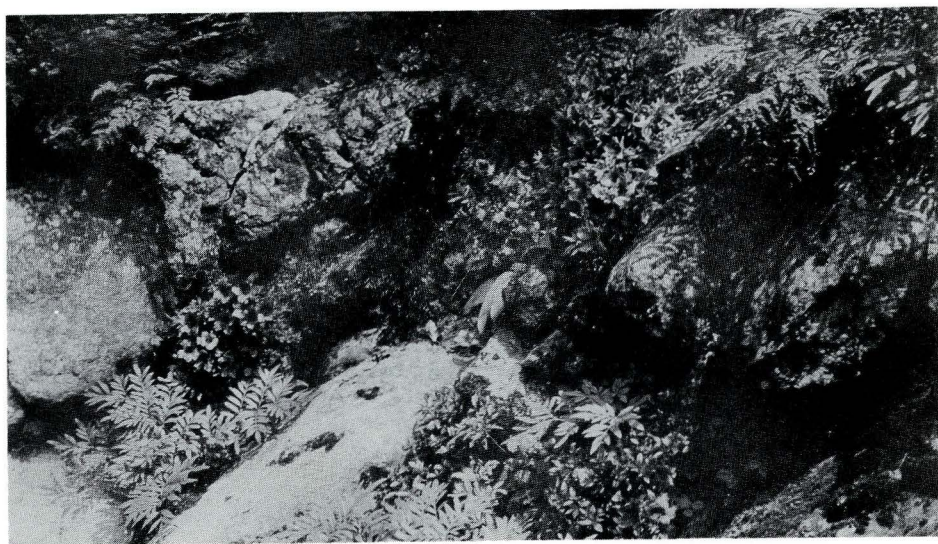


図4. サツキの自生状況（道志川溪谷夫婦園の上流）

に「箱根」の分布が記載されている。箱根でサツキが分布しているとすれば、塔の沢から宮城野橋までの間の早川溪谷である。ここは溪谷沿いに踏査したがサツ

キの生育は確認できなかった。道志川や中津川に比べて溪谷の規模が小さく、兩岸の岩壁は樹木の陰になっていて、分布の可能性は低いように思われる。

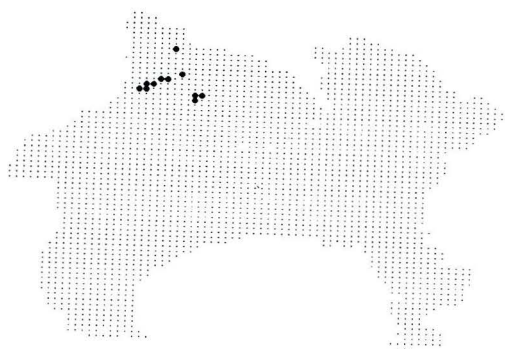


図 5. 神奈川県におけるサツキの分布

神奈川県植物誌1988のメッシュ箱根 5 の分布点は塔の沢で採集されたものであるが、これは植栽したものと思われる。東京大学の標本の中に「相模箱根堂ヶ島、櫻井半三郎、明治17年6月」と書かれた標本があるが、これも自生のものか植栽されたものか判断できない。箱根の植物に詳しい、松浦(1958)もサツキの項には植栽と書いている。Franchet et Savatier (1974) の *R. indicum* の分布地の一つに in montibus Hakone とあるので、あるいはこれが神奈川県植物目録(1933)の「箱根」の典拠かもしれない。

おわりに

箱根や酒匂川にもサツキが分布している可能性は否定できないが、これまでの調査では見いだされていない。最大の産地であった中津川溪谷が失われてしまった現在、道志川と相模川のサツキは東限の分布地としてきわめて貴重なものである。サツキの自生地は中流域の規模の大きい溪谷であるが、このような所は神奈川県では絶好のダム建設地として失われやすい。道志川溪谷にはまだかなりの個体数が残っており、6月の花期には岩壁いっぱいに紅色の花を咲かせ、まさに桃源郷のようである。道志川の清流とともに、子孫に残すべき貴重な遺産としてサツキの自生地を保存すべきである。

中津川溪谷の調査にあたっては県立宮ヶ瀬ビジター

センターの堀江澄男、森美文両氏に、道志川の調査では長谷川義人氏に大変お世話になった。林業試験場の中川重年、千葉県立中央博物館の大場達之両氏からは多くの情報や助言をいただいた。厚く御礼申し上げる。また、快く標本の閲覧を許して下さった東京大学付属小石川植物園の方々にも感謝する。

文 献

- Franchet et Savatier, 1974. *Enumeratio Plantarum in Japonia Sponte Crescentium*, Vol. 1, 14 + 485. Apud F. Savy Bibliopolium, Paris.
- 林 弥栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江, 1961. 丹沢山塊の植物調査報告書. 農林省林業試験場研究報告, (133): 1-128.
- 神奈川県植物調査会編, 1933. 神奈川県植物目録. 5 + 111 + 23pp., pls. 10. 横浜.
- 神奈川県博物館協会編, 1958. 神奈川県植物誌. 3 + 257pp., pls. 8. 横浜.
- 神奈川県植物誌調査会編, 1988. 神奈川県植物誌1988. 1442pp., 横浜.
- 北村文雄・田村輝夫・中村恒雄・吉川勝好, 1972. サツキの自然および植栽分布. 東京大学農園芸実験所研究報告, (5): 1-22.
- 松浦茂寿, 1958. 箱根植物目録. 4 + 1 + 2 + 7 + 90 + 2 + 25pp., pls. 3. 箱根博物会, 小田原.
- 宮代周輔, 1958. 神奈川県植物目録. 3 + 112 + 41pp.
- 中川重年, 1982. 神奈川県中津川のサツキについて. 神奈川県林業試験場研究報告, (8): 65-71.
- 大場達之, 印刷中. 丹沢中津川溪谷の植生. 神奈川県東丹沢地域自然環境調査報告書(仮題), 46-65. 日本自然保護協会, 東京.
- 高橋秀男, 1982. 維管束植物による相模川流域の環境評価 I フローラ. 神奈川県立博物館研究報告, (13): 91-127.
- 高橋秀男・城川四郎・勝山輝男, 印刷中. 中津川溪谷の植物相. 神奈川県東丹沢地域自然環境調査報告書(仮題), 1-34. 日本自然保護協会, 東京.
- 富樫 誠・大田洋愛, 1981. 原色日本産ツツジ・シャクナゲ大図譜. 243pp. 誠文堂新光社, 東京.
- (神奈川県立博物館)